



Title	らくせいからだらるか、の巻
Author(s)	behblues
Citation	臨床哲学のメチエ. 2013, 20, p. 13-15
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24932
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

らくせいからだらくか、の巻

behblues

わたしいろんなやりかたでとてもいつも「母さんが死んだ！」って思ってる。そのようなわたし、産休をはさみながら今期も、洛星高校プロジェクトにかかわっている。

村上龍は『無趣味のすすめ (幻冬舎、2009)』の「集中と緊張とリラックス」という項目のなかで書いている。

集中と緊張はまったく別のものだ。わたしたちは、緊張しているときには何かに集中できない。それはフィジカルな緊張でも、メンタルな緊張でも同様で、たとえばゴールキーパーと一対一になったサッカーのフォワードをイメージするとわかりやすい。超一流のフォワードは、ゴール前でボールを持ったときに、身体の余計な部分に力が入っていない。つまり肩や首の回りがガチガチに固くなったりしていない。不思議な気がするかもしれないが、彼らは心身共にリラックスしてゴールに対して、リラックスしているからこそ、ボールとゴールに集中できる。[後略]

9月7日 晴れ。

明日の授業は夏休みをはさんでひさしぶり。わたし自身も初回 +2 回め以

来でひさしぶり。区分的には、『前期』の残り。生徒は約 30 人。

夏休み前は、生徒数が多すぎるため、3 つに分けたグループでの対話をしてきた。グループによって、したことも手応えもだいぶちがったみたい。

プロジェクトメンバーから、あるグループワークのなかで話すテーマを募ってどれにするか検討していたとき、『そんなんはそれぞれの主観に拠るから話しても意味ない』的な発言があっていくつかのテーマが候補から退けられた、という話をきいた。なんじゃそりゃ？ って思ったけど、けっこうわかる気もするかも。それってたぶん、ひとの話をおもろく思えんってことじゃないかなあ。

わたしもずっとずっと、他人が話していることにいまち興味ももてなかった、おもしろい話、わたしが考えもつかへんような話、してくれたら、おもしろいけど。そういうふう。じぶんが、相手が、いままで考えたことないところまでいかないと、いっしょに考える楽しみなんてないみたい、だいたいなのは、笑ってもらえる、おもしろい、はっとするような『話』だった。

でもなんかいままでのいろいろ積み重なったいろいろが、今年の前期の対

話技法論でびん! とくるようになった。シンプルに、その場の誰かが問うたことにどうやったら答えられるか、に、あるいは誰かにどう問えるか、に、集中して、そしてそれと同じくらい、その出し方にも注意してみる、ということをするようになった。そうしたら、圧倒的に革命的に驚異的にもおもしろかった。わたしの言葉の使い方表情の使い方身振りの使い方はいつも笑ってもらうことを切望していることに気づいた。わたしは、いままでだって、ほんとうはこういう風に、『話し方』で、いっしょに話している人考えている人に笑ってほしかったのに、ちょっとでも笑ってもらえるよなおもしろがってもらえるよな『話』をせなあって、『話』をしたって勘違いしてた。

もしかしたら、なにか近い勘違いが、洛星のかれらにも発生しているのかもしれないって思う。『話し方』をおもし

ろがる体験ができれば、なにか変わるかもしれない。ミーティングで、プロジェクトメンバーと、よく考えて、それそのものをおもしろがれそうな『話し方の鑄型』をきめた、福島弁、カタコト、タカラヅカ風、のみっつ。

進行役をしたわたしは、最初から、休み時間「入っていいよ」って言ってみたけど多くの生徒が廊下でいたままだったときから、あるいは授業開始時「はじめまーす」って言ってみたけど多くの生徒が「きり一つ」って言い方に変えるまで反応してくれなかったときから、なにか身構えてしまって、身を固くしちゃって、けっきょく『話し方の鑄型』はおくびにもださないまま1時間終えてしまった。

沈んだ上体があって、近くの友達にだけ向けられた声があって、論破したろって輝く目があって、そういうのは強くて、ほんとうはいい場面もあった



はずなのにすくみつづける進行役がいてそれはわたしだみんなごめん。

このメチエにはもっと、具体的に書きたいと思っていたのになんかちよつとまだ無理みたいです。

対話するみなさんとべつになかよくなんてならなくてもよくて、でもとにかくそこにいるひとたちといても体はのびのびしていたい。くしゃみするんにも気づかうような場はすくなくともわたしには、悪。のびのびできたら話せること聴けること、ある。洛星で、のびのびどうしたらできるだろ。始める前とかに、物理的な、準備体操してみてもいいかもしれないな。みんなでしませうじゅんびたいそう、は、真ののびのびではないと思うけど、それできりあえず体がほぐれたら、各人各様ののびのびが得られてゆくかもしれない。philosophy for childrenとかで言われている(?) safetyってなんなのかいままでぜんぜん掴めてなかったけど、もしかしてのびのびってことかな。

これ以上書いてもきつとただの延び延び。

このように混乱 9月13日。

◇ behblues

大阪大学大学院文学研究科。2009年度から、臨床哲学研究室が行っている

学校での対話の時間に参加するようになり、今ではそれを愛している。未来共生イノベーター博士課程プログラムを！落とされた！がっかりだ！